

1-【1】資料・情報の提供（貸出し・閲覧・予約・レファレンス）

令和7年度第3回オーテピア高知図書館サービス計画推進委員会



概 要	○一般図書は、国内年間出版点数の5割以上を収集、雑誌や新聞は、2,000タイトル以上の収集を目指します。
	○電子図書館のサービスは、コンテンツの充実や視聴覚資料やデータベース、デジタル化した資料などの電子媒体の資料の充実を図ります。
	○ウェブ・サイトやSNS、チラシ配布、出前図書館のほか、動画やマンガなどの分かりやすいPR活動を実施します。

サービス指標	R 7年度 (R7.12/31現在)	R 8年度目標
	リクエストの受付件数 2,610件	4,000件
電子図書館の閲覧回数(電子雑誌を含む)	37,764回	10万回

主な取組 (R7.4/1~R7.12/31)

①資料の収集・提供

- ・図書等の購入は、令和6年度と同水準で推移。雑誌は、目標の2,000タイトル以上を確保。
- ※数値の詳細は、「サービス指標及び主な実績値(資料1)」及び各サービスの進捗管理シートに掲載。
- ・小説・児童書・文芸中心の電子書籍「高知県電子図書館」は8,285点、調べものに重点を置いた電子書籍「KinoDen」は5,022点を提供。
- ・複数人での同時アクセスが可能な読み放題パック(児童書)の提供を開始し、案内チラシを作成した。
- ・GIGAスクール端末での活用と電子図書館の普及のため、サービス周知を行った。(11/16サイエンスフェスタでの体験会への出前等)

②貸出し・予約・リクエスト

- ・時宜にかなった展示活動を行う等、利用者のニーズに合わせた資料を紹介し、貸出しにつなげた。

③展示

- ※各サービスの進捗管理シートに掲載。

④利用ガイド

- ※各サービスの進捗管理シートに掲載。

⑤レファレンス

- ・行政向けメルマガ等に「調べもの案内」の具体例を掲載し、「調べもの案内サービス」の利用を促進。
- ・行政の横断的な研修会や教職員向けの研修会等機会をとらえてサービスについてPR。
- ・レファレンス協同データベースへの事例登録。(一般公開:12件)

成果と課題 (○:成果 ■:課題)

①資料の収集・提供

- 利用者のニーズに対応して必要な資料を提供できた。
- 年間出版点数の5割以上収集の目標達成や、電子書籍サービスの有用性・利便性の向上のため、継続的な資料費の確保が必要。
- 廃刊・休刊等により、雑誌の出版タイトル数自体が減っており、「受入2,000タイトル以上」という目標値の達成が厳しくなりつつある。
- 県立学校の「高知県電子図書館」の利用登録はほぼ完了しているが、市町村は6市3町1村(今年度新たに香南市、宿毛市が登録)の登録にとどまっているため、更なる周知が必要。
- リサイクル図書の配布
- 市:小学校・放課後児童クラブ等(18施設)にリサイクル図書を譲渡。
- 県:児童養護施設等(16施設)に展示期限を過ぎた児童図書選定支援用図書を譲渡。
- 除籍済資料の有効活用のため、リサイクル図書配布先のさらなる拡大が必要。
- 継続した資料収集・活用のため、収蔵スペースの確保が必要。

②貸出し・予約・リクエスト

- 令和8年3月の次期図書館情報システム稼働に合わせて、オーテピアアプリの改修が必要。

③展示

- ※各サービスの進捗管理シートに掲載。

④利用ガイド

- ※各サービスの進捗管理シートに掲載。

⑤レファレンス

- 関連機関への訪問や連携により、継続的なレファレンスの依頼につながっている。
- 事例や調査プロセスの一般公開により、広くレファレンスについてPRすることができた。
- PRの場では、「調べもの案内サービス」について「知らなかった」という声も多く、今後もPRを継続的に行う必要がある。
- レファレンス件数(所蔵調査、事項調査)は減少傾向。

今後の取組

①・多様な資料を収集・提供する。

- ・電子書籍サービスは、タイトルの充実を図るとともに、各媒体の特徴を踏まえたPRを行う。
- ・引き続き市町村教育委員会等に対して、学校の教職員や児童・生徒の「高知県電子図書館」への一括登録を働きかける。
- ・高知県電子図書館でEBSCO eBooksを導入し、洋書コンテンツの提供を開始予定。
- ・児童図書選定支援用図書の譲渡について、児童福祉関係の諸機関に対する、案内の範囲や方法などを検討。
- ・県内で重複して所蔵している資料の抜き出しに加え、旧大板高校の外部書庫再開に向けた準備を行う。

②・アプリの応答などの改善点について、システムベンダーと打ち合わせを行う。

③※各サービスの進捗管理シートに掲載。

④※各サービスの進捗管理シートに掲載。

⑤・SNSも活用し、調べもの案内サービスについてのPRを継続。

- ・レファレンス協同データベースへの事例登録を促進。

特記事項など

1-【2】情報リテラシーの向上支援



概要

○実際に資料や情報を参照することができる図書館のメリットと司書の専門性を生かし、情報社会において求められる情報リテラシーの習得や向上を支援します。

サービス指標

パスファインダーの提供数
データベースの利用件数

R 7年度 (R7. 12/31現在)	R 8年度目標
39種	65種
2, 113件	5, 000件

主な取組 (R7. 4/1～R7. 12/31)

- ①図書館活用講座の実施
- ・情報リテラシー初級講座では、これまでのオーテピアアプリの使い方を説明するものに加え、電子書籍の使い方を説明するものとの2本立てとし、隔月交互に実施。
 - ・オーテピアアプリの説明動画9本を作成し、YouTubeで公開。
 - ・情報リテラシー中級講座では、図書館ウェブ・サイトを使った資料検索の講座を実施。
 - ・学校や団体に対して図書館活用講座を実施。
例：高知県新規採用職員研修・主査研修、高知市（こうち人づくり広域連合）新規採用職員研修、土佐リハビリテーションカレッジ（高知健康科学大学）、高知商業高校等
- ②利用ガイド（パスファインダー、ガイドブック等）の作成・提供
- ・「パスファインダー作成促進プロジェクト」のメンバーを中心にテーマを検討。
 - ・ティーンズサービスのぼけぱす9種について改訂作業を実施。
- ③連携事業等での情報リテラシー向上支援の実施
- ・学校等の図書館見学や職場体験の際に、情報リテラシーに関する説明を行ったほか、連携事業や出前図書館等で図書館の活用方法を説明。
例：「高校生ビジネスプラン・グランプリ」プラン作成講座（7/25、8/8）

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①図書館活用講座の実施
- 情報リテラシー初級講座の内容に電子書籍の使い方講座を加えることにより、利用者のニーズにより合致し、充実したものとなった。
 - 初級講座の内容を生かしたオーテピアアプリの説明動画を公開することで、講座内容をより多くの利用者に提供することができた。
 - 情報リテラシー中級講座の実施によって、利用者の蔵書検索のスキル向上に寄与できた。
- ②利用ガイド（パスファインダー、ガイドブック等）の作成・提供
- 既成のパスファインダーの情報を適宜改訂し、最新の情報を提供することができた。
 - パスファインダーの提供については、目標数との乖離があるため、検討したテーマのパスファインダーの作成が進むようにサポートを行う必要がある。
- ③連携事業等での情報リテラシー向上支援の実施
- 図書館見学や職場体験等の際に、情報へのアプローチ方法や情報の評価能力について学ぶ機会を提供できている。
 - 館内の貸室で行われるイベントや出前図書館の機会を通じて、図書館の活用に関するPRができている。



情報リテラシー初級講座
「図書館の電子書籍を読もう！」



学校や団体向けの図書館活用講座

今後の取組

- ①・情報リテラシー初級講座では、引き続き、アプリの使い方講座と電子書籍の使い方講座を交互に実施予定（3/18）。
・情報リテラシー上級講座では、レファレンスのニーズの高い先祖調べに関する講座を実施予定（2/15）。
- ②・パスファインダーの作成・提供について、各サービスでの作成作業やアイデア出しのサポートを行うほか、複数のサービスにまたがるテーマでの作成も促進する。
・情報リテラシー講座の内容に則した動画の作成に取り組む。
- ③・各サービス担当の連携事業を通じて、引き続き図書館活用講座等を行うなど、利用者の情報リテラシー向上支援に取り組む。

特記事項など

2-【1】ビジネス支援サービス



概要

○経済や経営、就業、起業、転職等、課題解決に役立つ6～7万冊の書籍、専門誌、データベース等のビジネスに関連する資料・情報を提供します。
○気軽に相談できるビジネス支援デスクを設置し、担当司書が、情報収集や調べものをサポートします。
○ビジネスに役立つ講座や相談会等を専門機関等と連携して開催するとともに、図書館活用講座等を実施します。

サービス指標

ビジネス・農業・産業支援分野でのレファレンス件数

R 7 年度 (R7. 12/31現在)

R 8 年度目標

892件

2,400件

主な取組 (R7. 4/1～R7. 12/31)

① 図書の収集・提供

- ・分館・分室にビジネス分野の本を提供。5月からテーマをリニューアルして実施。
- ・パスファインダーNo. 1～4の更新、ブックリスト1種の作成。

② レファレンス・サービス

- ・市場調査を中心に、行政や産業支援機関、事業者等からの問い合わせに回答。

③ アウトリーチ・サービスの実施

- ・『夢のかけ橋』(4月号)に高校商業科の教員向けの図書館紹介記事を掲載。**新規**
- ・次期サービス計画策定に向けて、関係機関を訪問して業務課題や連携に関するヒアリングを実施(11・12月)**新規**

④ ビジネス支援サービス活用講座の実施

- ・「高校生ビジネスプラン・グランプリ」プラン作成講座にて、データベース活用講座を実施(7/25、8/8)。
- ・高知商業高校での出前授業で、データベースを紹介・実演(6/26)**新規**
- ・「土佐経営塾」講座内で図書館活用に関する動画を上映(9/29)。

⑤ 他機関と連携したセミナー・相談会等の事業の実施

- ・「まちかど就農相談」、「若者サポートステーション進路相談会」。(毎月)
- ・出前図書館を5件実施。
- ・「ジョブカフェこうち出張相談会」(9/6)

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

① 図書の収集・提供

- 分館・分室での展示により、地域の利用者がビジネス分野の資料を手に入る機会を増やすことができた。月平均約110冊を提供しており、分館室利用者からは「色々なジャンルの本があっていいね」と好評を得ている。分館室での選書にも役立っている。

② レファレンス・サービス

- 事業者や起業を考えている方から継続的にレファレンスを受けることも増え、開業や商品開発の支援につながっている。

③ アウトリーチ・サービスの実施

- 商業系高校に広報紙や訪問で各種サービスを紹介し、活用講座の実施につながった。
- 関係機関へのヒアリングでは、団体の課題やニーズの把握ができた。

④ ビジネス支援サービス活用講座の実施

- 高知商業高校の出前授業を通じて、商品開発実習等におけるデータベースの有用性を発信できた。
- 土佐経営塾で上映した動画は、主催者や講師から「図書館の存在を知り、使うきっかけになる」と高評価を得ている。
- 活用講座の定着や回数増を図るため、学校等への継続的な働きかけが必要。

⑤ 他機関と連携したセミナー・相談会等の事業の実施

- 各種相談会の開催により、主催団体や参加者に図書館の活用についてPRできた。
- 高知家の女性しごと応援室主催セミナーにおける出前図書館は、年度内に複数回の実施依頼を受けるなど好評で、先方のウェブ・サイトにも様子が掲載された。
- 「こうち空き家カレッジ」での出前図書館では、持ち込んだ資料の半分以上が借りられ、レファレンスや予約にもつながった。



「高校生ビジネスプラン・グランプリ」プラン作成講座の様子



「こうち空き家カレッジ」での出前図書館の様子

今後の取組

- ①・パスファインダーを作成する(年2種)。
- ③・関係機関と連携した活用講座の実施に向けて検討を進める。
- ④・高校向け活用講座について、次年度の開催に向けたPRを実施する。
 - ・土佐MBA専科講座「図書館をビジネスに生かす」を実施(2/6)。
- ⑤・まちかど就農相談、若者サポートステーション進路相談会を継続して実施(毎月)。

主な連携先

こうち若者サポートステーション、県農業担い手支援課、県住宅課、県産業イノベーション課、市地域活性推進課、市産業政策課、放送大学高知学習センター、高知銀行、ジョブカフェこうち、高知県産業振興センター など

特記事項など

- ・県経営支援課主催「商店街活性化アイデア創出ワークショップ」への参加(1/27)。

2-【2】健康・安心・防災情報サービス

概要

- 健康・福祉・防災等の分野の課題解決につながる資料・情報を提供・発信するとともに、図書館の活用方法を積極的に周知します。
- 専門機関等との連携によるイベントの開催、チラシ・パンフレットの配布や企画展示を行うことにより、利用者に情報を提供します。

サービス指標

健康・安心・防災情報分野での
レファレンス件数

R 7 年度 (R7. 12/31 現在)

R 8 年度目標(見直し前)

789件

2, 000件(1, 600件)

主な取組 (R7. 4/1～R7. 12/31)

① 図書の収集・提供

- ・ 防犯やスポーツ、ヤングケアラー、地震の図書展示をタイムリーに実施。
- ・ 発達障害やひきこもり等をテーマにした図書展示を専門機関と連携して実施。
- ・ 映画会担当やビジネス担当との協働や専門機関からの依頼により、テーマに合わせた出前図書館を積極的に実施。
- ・ ブックリストを1種作成、5種を改訂。パスファインダーを1種ずつ作成・改訂。それぞれにQRコードを載せ、相互参照を可能にした。
- ・ 出前図書館や共催事業等でブックリストやパスファインダーを積極的に作成・配布。

② 他機関と連携したセミナー・相談会等の共催事業の実施

- ・ 「ひきこもりピア相談会」を6・11月に実施。
- ・ 「地域共生社会推進イベント」を実施。(8/24・市地域共生社会推進課等)。
- ・ 「子どもの健康増進に向けた運動教室」を実施(9/23・高知健康科学大学)。
- ・ 「がん相談会」を平日の夜間にも実施(10/2、10/22)。
- ・ 公開講座を年9回実施(高知リハビリテーション専門職大学)。

③ アウトリーチ・サービスの実施

- ・ 関係機関(16団体)に対して、業務課題や連携に関するヒアリングを実施(11・12月)。 **新規**
- ・ すでに連携している専門機関に対しても、改めて連携内容や手順について説明。

④ 広報支援

- ・ 連携展示やパネル展等を通して、専門機関の啓発事業等の周知に協力。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

① 図書の収集・提供

- 専門機関や行政課から、選書やブックリスト、レファレンスに対して「業務に役立った」「さっそく活用したい」「課内でパスファインダーを回覧する」等の声があった。
- 他課のブックリスト共同作成の事例を知った行政職員から、自課でも同様に組み組みめな
いか相談があり、新たな共同作成につながった。
- 県民・市民の情報要求の高まりに応じて、迅速に情報提供できた。
- 出前図書館をきっかけに、来館経験の有無に関係なく、イベント等の参加者に情報提供できた。専門機関や行政課からのレファレンス増加や連携強化にもつながった。
- 引き続き、専門機関や行政課等に積極的にブックリストやパスファインダーを提供する等、利用促進のための工夫が必要。
- 最新情報を提供するため、必要に応じて随時、ブックリスト等の更新が必要。

② 他機関と連携したセミナー・相談会等の共催事業の実施

- イベント実施時に図書館PRの時間を確保することで、図書館の活用方法を周知できた。
- 相談会の開催により、支援を必要とする利用者と相談窓口をつなぐことができた。
- 連携事業のより良い運営のため、連携機関への丁寧な説明と相互理解が必要。

③ アウトリーチ・サービスの実施

- ヒアリングにより、関係機関の課題やニーズの把握ができた。
- ヒアリングや連携先に合わせた丁寧な対応を行うことで、連携の意義や方法を関係機関と改めて確認し合うことができ、相互理解や信頼関係がより深まった。
- 出前図書館をきっかけに、新たな団体とのつながりを得ることができた。

④ 広報支援

- 専門機関と共に展示資料を選定することで、利用者に信頼性の高い情報を提供できた。
- 県市行政課等から広報活動のために連携図書展示の実施について依頼が複数あった。
- 市関係課を通じ、地元サッカークラブのグッズを借受けて展示を行い、来館者の関心を引き付けることができた。



地元サッカークラブのグッズや関連本の展示



学生向け図書館活用講座



イベントでの出前図書館

今後の取組

- ①・ブックリスト等の更新・提供により、県民・市民、専門機関、行政の関係部署に向けた図書館活用の周知を継続的に実施。
・引き続き、利用者の情報ニーズを把握し、収集した資料の活用を促進。
・防災に関する活用事例まがの作成。
- ②・引き続き、専門機関と連携した事業を実施。
・「ひきこもりピア相談会」(3/8)
- ③・引き続き良好で対等な関係による専門機関との連携を通して、相互理解を深めていく。
- ④・広報支援を通して専門機関等との関係を深め、利用者への専門的な情報提供につなげる。

主な連携先

県障害福祉課、県立精神保健福祉センター、市健康増進課、高知市社会福祉協議会、高知健康科学大学、高知大学医学部附属病院、高知産業保健総合支援センター など

特記事項など

- ・ 防災地図等がデジタル移行されるなどデジタル端末を持たない・端末操作に困難がある人への情報提供が課題。
- ・ 第61回 日本医学図書館協会中国・四国地区会総会で事例発表を行った。
- ・ 第111回 全国図書館大会愛媛大会第7分科会で、健康情報サービスが事例紹介された。
- ・ 図書館総合展(防災科研自然災害情報室ブース)にパネルを提供。Web公開される予定。

2-【3】行政支援サービス



概要

○高知県庁と高知市役所の職員が、行政運営や政策立案を行う際の情報収集、調べものを図書館司書がサポートします。
○数多くの方が来館する強みを生かし、各組織・機関と連携した講座・イベントの開催やパンフレット等の配布を行い、行政の政策・施策の推進を支援します。

サービス指標

図書館と連携した課題解決支援のための図書館サービス説明等の実施

R 7 年度 (R7. 12/31現在)

R 8 年度目標

33回

56回

主な取組 (R7. 4/1～R7. 12/31)

※個別サービスでの取組は各サービスのシートに掲載

- ①各組織・機関への貸出し、レファレンス
 - ・市立学校教職員向け（高校除く）の学校向けサービスについて、5月の校長会にて再周知。
 - ・各課、関係機関の利用動向把握のため、定期的な貸出冊数の抽出及び記録を実施。
- ②図書館活用講座等の実施
 - ・こうち人づくり広域連合等主催の「新採職員研修」(4月)や「政策研究共同研修」(6/5)で図書館活用講座を実施。
 - ・市「地域活動支援推進部会研修会」でサービス説明を実施 (7/16)。
 - ・はりまや橋小の教職員研修で図書館活用講座を実施 (8/5)。
- ③図書館活用事例の広報
 - ・各課向けサービスやおすすめ本、レファレンス、広報協力等の事例を行政掲示板等で周知。
- ④各組織・機関と連携した取組の実施
 - ・各サービスにおいて、関係機関と連携した相談会や展示、ブックリストの作成等を実施。
 - ・県市広報紙の特集に合わせた常設展示を実施。
- ⑤出前図書館等での資料の紹介・提供
 - ・県人事課主催の県庁職員を対象とした「トップセミナー」にて出前図書館を実施 (7/10)。
 - ・出前図書館「出張！オーテピア高知図書館 in 高知市役所」を実施 (12/25)。
- ⑥アウトリーチ・サービスの実施
 - ・次期サービス計画策定に向けて、行政機関等を訪問してヒアリングと図書館PRを実施。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①各組織・機関への貸出し、レファレンス
 - 県心の教育センターや市人権・男女共同参画課、市教育研究所などを中心に、団体貸出が継続的に利用されている。
 - 議会答弁に関するレファレンスがあり、参考となる図書館資料を提供。A I での事前調査を補完する情報提供により行政運営に寄与できた。
 - 市立学校教職員向け（高校除く）の団体貸出のさらなる周知が必要。
- ②図書館活用講座等の実施
 - 政策立案の情報収集に図書館が活用できることをPRできた。
 - 研修会での説明後、データベース「MieNa」の利用につながった。各サービスでの取組によって関係各課との関係性が深まり、行政運営に必要な情報収集に寄与できている。
 - 学校訪問により、教職員の図書館に対する理解が深まるとともに、授業支援等の提案もあり、今後の新たな連携につながっている。
- ③図書館活用事例の広報
 - 継続的な情報発信により、サービスや活用事例などをPRできている。
 - オーテピア高知図書館通信の内容が定型文となりつつある。新たなPR要素・展開の検討が必要。
- ④各組織・機関と連携した取組の実施
 - 連携により各組織・機関との相互理解が深まったことで、ニーズの高い事項について正確な情報が提供できるようになり、課題解決に貢献できた。
 - 継続的な取組ができるよう、今後も各組織・機関との連携を深める必要がある。
 - 広報紙特集記事関連展示に関する広報の強化が必要。
- ⑤出前図書館等での資料の紹介・提供
 - ブースに立ち寄った職員や主催者からは「毎年本を持って来てくれて助かる」「利用カードの更新ができていい」等と好評。
- ⑥アウトリーチ・サービスの実施
 - これまで関係性が薄かった行政機関に対しても図書館の活用をPRできた。その後、レファレンスにつながった課もあった。



県「トップセミナー」での出前図書館



「出張！オーテピア高知図書館 in 高知市役所」

今後の取組

- ①・利用者ニーズが把握できる指標の検討。
 - ・利用が多い所属については、ニーズの高い事項を把握し、選書等に生かす。
 - ・諸室を利用する各課へ団体貸出チラシを配布し、PRを実施。
 - ・オーテピア近隣の小学校への訪問を継続。学校教職員に団体貸出を直接PRする。
- ②・新規採用職員研修にて実施する図書館活用講座の説明内容を統一。
- ③・図書館通信の新たな展開の検討。
- ④・展示等の連携後に、関係性を継続し深化させる仕組みを検討。
 - ・展示方法の刷新及びPR活動の拡充。
- ⑤・県庁等での出前図書館の実施。

主な連携先

県：人事課、農業担い手支援課、住宅課、雇用労働政策課、精神保健福祉センター、地域福祉政策課、警察本部
市：健康増進課、地域防災推進課、地域共生社会推進課、観光魅力創造課、移住・定住促進課、産業政策課
その他：こうち人づくり広域連合

特記事項など

・行政レファレンス件数

R5	R6	R7 (12月末)
58	71	40

・行政職員を対象としたアンケート調査を実施 (8/3-8/31)。

2-【4】高知県関係資料の収集・保存・提供



概要

○高知県に關係する資料を網羅的に収集し、各方面の利用に供するとともに、資料を生かし、県民・市民、観光客、移住希望者等に向けて情報発信します。
○貴重資料をはじめとするニーズの高い資料のデジタル化を進め、ウェブ・サイトで公開します。

サービス指標

高知県関連のレファレンス件数

R 7年度 (R7. 12/31現在)	R 8年度目標
1,169件 (事項：638、所蔵：531)	4,400件

主な取組 (R7. 4/1～R7. 12/31)

- ①高知県にとって必要な資料の収集
 - ・「こうちミュージアムネットワーク」地域資料部会と連携し、県内資料の保存状態等の情報を共有。
 - ・県民・市民からの寄贈申込みへの積極的な対応。
- ②レファレンス・サービス
 - ・先祖調べをはじめ、高知県に関する様々な問い合わせに回答。
- ③図書以外の資料の収集
 - ・展示コーナーで県内市町村を紹介するため、各市町村に観光パンフレット等の寄贈を依頼。
 - ・県や市町村に対し、提供可能な行政文書等の資料の寄贈を依頼。
- ④貴重資料等のデジタル化
 - ・県立図書館所蔵の「田村利親関係資料」や「三宮家資料」など、計242点の資料をデジタル化。
 - ・市民図書館に寄贈された『高知県史蹟資料集録』関係写真をデジタル化。
- ⑤デジタル化された貴重資料の提供
 - ・展示室で貴重資料の複製パネルを使用した企画展示を実施。
 - ・展示室で漫画家の黒江S介氏とコラボした企画展示「高知市を描く」を実施(10～2月)。
 - ・「桂井和雄資料」を収蔵品検索データベースで公開(目録のみ)。
 - ・「加賀野井家資料」のデジタル写真を収蔵品検索データベースで公開。
 - ・収蔵品検索データベースでの「図書館のおすすめ」(ウェブ展示)更新。
 - ・デジタル化した『高知県史蹟資料集録』関連写真を収蔵品検索データベースで公開。
 - ・貴重資料の画像を使用したしおりを作成し、オーテピアのイベントで配布。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①高知県にとって必要な資料の収集
 - 県民・市民から提供された貴重な資料について、「こうちミュージアムネットワーク」と共に保存場所や受入先を検討したことで、貴重資料の散逸を防いだ。
 - 県民・市民から提供された高知県関係資料によって、現在では入手困難な資料が入手できた。
 - 県内の文化施設等では、収蔵スペースに余裕がないことやマンパワーが十分でないことなどから、貴重な資料の受入れには限界がある。
- ②レファレンス・サービス
 - 県発行季刊誌『とさぶし52号』の県史編さん室コーナーに、高知資料のレファレンス・サービスの紹介記事が掲載された。
- ③図書以外の資料の収集
 - 市町村の観光情報などを紹介する展示を行うことで、市町村情報の発信と各市町村が作成した資料の収集につながった。
 - よさこい関連展示が高知市商工会議所などの目に留まり、パンフレット等の寄贈につながった。
 - ボーン・デジタルの資料(初めからデジタルデータとして作成されたもの)の収集・提供に関する方針等が定まっていない。
- ④貴重資料等のデジタル化
 - 「横川末吉氏研究資料」821点、「大石家文書」376点の目録データが完成し、ウェブ・サイトで公開した。
 - 高知県立図書館デジタルギャラリーにおいて、『順水日記巻三』の翻刻文を公開したことで、原文のみのときよりも読みやすい状態で資料が提供できるようになった。
 - 『高知県史蹟資料集録』関係写真のデジタル化を行い、ウェブ・サイトで公開したことにより、史跡の存在が広く認知され、教育や研究に活用されやすくなった。
- ⑤デジタル化された貴重資料の提供
 - 貴重資料の複製パネルの展示により、図書館が所蔵する貴重資料についてPRできた。
 - 貴重資料のウェブ・サイトでの公開件数の増加に伴い、貴重資料に関する問い合わせや利用件数が増加した。
 - オーテピアのイベントで貴重資料の画像を使用したしおりを配布することにより、利用者に貴重資料をPRすることができた。
 - 黒江S介氏とのコラボ展示により、新たな客層に貴重資料をPRすることができた。
 - デジタル化に必要な知識等の蓄積をさらに進めていく必要がある。



県内市町村の紹介展示

今後の取組

- ①・「こうちミュージアムネットワーク」と連携し、小規模館や個人宅にある資料原本の保存を支援。
- ②・先祖調査や偉人研究に役立つ高知資料を情報リテラシー講座で紹介(2/15)。 **新規**
- ③・引き続き、市町村を紹介する展示を実施。
 - ・市町村資料コーナーの整理。
 - ・ボーン・デジタル資料の収集・提供方法について検討。
- ④・引き続き、所蔵資料のデジタル化を進める。
- ⑤・高知県立図書館デジタル・ギャラリーにおいて、『田岡典夫文庫』等の125点を公開予定。
 - ・デジタル化した資料を収蔵品検索データベースの「図書館のおすすめ」で公開。
 - ・3階展示室において、デジタル画像を用いて作成したパネルを展示。
 - ・デジタル化した貴重資料に関して、展示や収蔵品データベースでの公開以外の活用のあり方について検討(商用利用など)。

主な連絡先

こうちミュージアムネットワーク

特記事項など

- ・展示室にて「たいむ・図りっぷ - 高知県立図書館・高知市民図書館写真展 -」を開催。
- ・高知県ゆかりの作家に関する情報を県立文学館と連携し、文学館と当館の利用者に二次元コードの読み取りにより双方の利用者に提供する取組みを開始。

3-【1】児童サービス



概要

○子どもたちの心や成長に寄り添い、豊かな読書経験を培う手助けをするとともに、生涯学習の基礎となる情報リテラシーの向上を図ります。
○子育てに関わる大人や、子どもの読書活動を支える大人に対する支援を行います。

サービス指標

こどもカウンターでの
レファレンス受付件数

R 7年度 (R7.12/31現在)	R 8年度目標
1,498件	7,900件

主な取組 (R7.4/1～R7.12/31)

- ①情報リテラシーの学習機会の提供
 - ・図書館見学の機会に、図書の分類やインターネットを使った蔵書検索について説明。
- ②子どもと本を結びつける活動の実施
 - ・こどもの読書週間に合わせて、展示している本を10冊読む「読書マラソン」を実施。 **新規**
 - ・高知県立美術館への協力による図書展示。
 - ・行事の広報をInstagramに投稿。 **新規**
 - ・おはなし会を定期的に開催。
- ③保護者やボランティアなどへの読み聞かせなどの普及
 - ・ストーリーテリング勉強会などを定期的に開催。
 - ・高知市ジュニアリーダースクールの活動に協力し、絵本の読み聞かせ講座を実施(6/15)。 **新規**
- ④子育て支援に関連する資料や情報の提供
 - ・仕事と子育ての両立に役立つ情報を調べる「ぼけぱす」(簡易パスファインダー)を新規作成。
 - ・高知市教育研究所と連携した「不登校に関する相談会」を開催(5/11、8/24)。 **新規**
 - ・子育て講演会及び主催者との連携展示を実施。
- ⑤他機関と連携した取組の実施
 - ・高知市学校教育課主催の図書館支援員研修に講師として参加(5/16、10/16)。
 - ・はりまや橋小学校の教職員に図書館活用講座、館内ツアーを実施(8/5)。 **新規**
 - ・高知市教育研究会図書館教育部会研修会にて、図書館活用講座、館内ツアー、電子図書館の体験講座を実施(8/21)。 **新規**
 - ・はりまや橋小学校でブックトーク(出前講座)を実施(11/5、12/12)。 **新規**

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①情報リテラシーの学習機会の提供
 - 図書館見学の受入れ数：59校2,410名(自由見学含む)。多くの子どもたちに図書館の使い方や本の探し方を伝えることができた。
- ②子どもと本を結びつける活動の実施
 - 「読書マラソン」によって、子どもと本の接点を創出し、一人ひとりの読書の幅を広げることができた(参加者38名)。
 - Instagramによる広報開始後、行事の参加者が増加した。
 - クリスマスおはなし会には18名の親子が参加。準備を通して、おはなし組木やパネルシアターなどの技術・知識を職員間で共有できた。
 - 選定支援コーナーの必要性を理解してもらうために、利用対象者の意識の醸成が必要。
- ③保護者やボランティアなどへの読み聞かせなどの普及
 - 勉強会の成果発表の場である「大人のためのおはなし会」には59名が参加。初めてストーリーテリングを聞く若い年代の参加者も見られるなど、これまでとは異なる層にも活動が届き始めている。
- ④子育て支援に関連する資料や情報の提供
 - 子育て応援コーナーで配布している「ぼけぱす」はよく持ち帰られており、子育て世代に役立つ情報の探し方を伝えられている。
 - 不登校相談会には、延べ5組が参加。会場の提供や関連図書の展示を通して、保護者や本人に安心できる居場所としての図書館を体験してもらうことができた。
- ⑤他機関と連携した取組の実施
 - 教職員を対象とした図書館活用講座の参加者は延べ77名。教育現場で役立つ図書館サービスについて、広く周知することができた。
 - ブックトークを体験した子どもたちからは、「本がもっと好きになった」などの感想が寄せられ、活動を通して読書への興味・意欲を高めることができた。
 - 学校との連携について、今後も継続し、対象を広げていく必要がある。



クリスマスおはなし会



高知市教育研究会図書館教育部会研修会の様子



はりまや橋小学校でのブックトーク

今後の取組

- ①・パスファインダーや動画など、非来館でも情報リテラシーの向上に役立つコンテンツについて、活用を促進するための方法を検討。
- ②・児童図書選定支援コーナーのPRを行い、認知度を高める。
 - ・「こどもの本の講演会」を開催(3/8)。
 - ・教職員向けに団体貸出の活用を周知する取組として、近隣校への訪問について検討。
- ③・読書ボランティアと地域をつなぐ方法について、高知市の関係課に相談して検討。
- ④・高知市教育研究所と連携した「不登校に関する相談会」を開催(2/1)。
 - ・ウェブ・サイトに、子育て世帯に役立つ設備等をまとめた「お子様連れの方へ」のページを新設。 **新規**
- ⑤・来年度も連携を継続できるよう、学校と共に検討。

主な連携先

高知県心の教育センター、高知県立美術館、市学校教育課、市子ども育成課、高知市立はりまや橋小学校、高知こどもの図書館、高知学園短期大学

特記事項など

3-【2】ティーンズ・サービス



概要

○ティーンズ世代の多様な興味・関心に応える本や学習内容を深めることができる本などを提供します。
○イベント・企画展示の実施やPR活動などにより、図書館利用のきっかけづくりと読書機会の創出に取り組みます。

サービス指標

ティーンズからの投稿件数

R 7 年度 (R7. 12/31現在)

R 8 年度目標

14件

50件

主な取組 (R7. 4/1~R7. 12/31)

- ①ティーンズを主体とした読書普及活動の実施
 - ・全国高等学校ビブリオバトル2025高知県大会(11/9)を開催。
 - ・ティーンズ部員が投稿してくれたおすすめ本を「私たちの推し本~ティーンズ部~」としてティーンズコーナーで展示。
- ②情報リテラシーの学習機会の提供
 - ・「ぼけぱす」を9種改訂。
 - ・山田高校の生徒に図書館活用講座を実施。その他県内中学・高校などにもオリエンテーションや図書館見学を実施(5校)。
 - ・(株)日本政策金融公庫主催の「高校生ビジネスプラン・グランプリ」に応募するためのプラン作成講座を実施(7/25、8/8)。
 - ・高校訪問時に教職員や生徒向けのサービス、図書館活用講座についてPR等を実施(5校)。
- ③他機関と連携した取組の実施
 - ・高知市学校教育課主催の図書館支援員研修に講師として参加(10/16)。(再掲)
 - ・高知市教育支援センター「みらい」で出前講座『クリスマスPOPづくり』を実施(11/17)。12月には連携展示を実施するとともに、後日、連携展示の案内を含めた館内ツアーも実施。
 - ・高知県教育委員会小中学校課(11月)・高知市少年補導センター(12月)と連携し、パネル展示を実施。
 - ・高知市教育研究所と連携した「不登校に関する相談会を開催(5/11・8/24)。(再掲)」**新規**
- ④ブログ、SNSの活用
 - ・ティーンズに薦めたい本の紹介文やイベントや連携展示等についてInstagram等で情報を発信。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①ティーンズを主体とした読書普及活動の実施
 - ビブリオバトルでは、参加者から「おもしろかった」「良かった」などの声があり、ビブリオバトルの魅力が伝えられ、新たな本との出会いを創出できた。
 - 受験などの理由でティーンズ部メンバーが減少傾向にある。メンバーを増やすための工夫が必要。
- ②情報リテラシーの学習機会の提供
 - 山田高校の生徒への図書館活用講座は、探究テーマに合わせた本の探し方講座や書架の案内が特に好評であり、図書館の利用促進につながった。
 - 「高校生ビジネスプラン・グランプリ」プラン作成講座では、ビジネスプランの作り方、データベースを含む図書館資料の活用方法が紹介できた。高校生の将来に役立ち、図書館の利用につながる内容となった。



全国高等学校ビブリオバトル2025
高知県大会



愛宕中学校との連携展示



山田高校図書館活用講座

- ③他機関と連携した取組の実施
 - 高知市学校図書館支援員研修会に講師として参加し、オーテピアの取組やティーンズ・サービスについて、教職員に直接PRすることができた。

今後の取組

- ①・職場体験生などからティーンズの生の声を聞き、今後の活動内容に生かす。
・ティーンズ部募集チラシの改訂。
・来館している中高生に向けて、図書館活用促進のための企画を検討。
- ②・引き続き高校訪問などの機会に、教職員や生徒向けの図書館活用講座についてPRを実施。
- ③・高知県心の教育センターなどの関係機関との連携を強化し、多様な事情を抱えるティーンズに図書館サービスを届ける方法を検討。
・高知市教育研究所と連携した「不登校に関する相談会」を実施(2/1)。(再掲)
- ④・引き続きInstagram等でこまめに情報発信を実施。

主な連携先

日本政策金融公庫、市子育て支援課、市学校教育課、教育支援センターみらい

特記事項など

高知小津高校でサービス説明を実施(11月)。

3-【3】多文化サービス



概要

- 日本語を学習するための資料のほか、地域で生活するためのさまざまな情報や知識を、外国語ややさしい日本語で提供します。
- 異文化を知るきっかけや、多様化する高知県在住の外国人の生活に役立つ情報を提供します。

サービス指標

ブックリストやパスファインダーの提供数

R 7 年度 (R7.12/31現在)

R 8 年度目標

29種

31種

主な取組 (R7.4/1~R7.12/31)

①資料の収集・提供

- ・姉妹・友好都市(常設、周年記念)、外国人雇用啓発月間や日本語能力試験の図書展示を実施。
- ・多言語版おすすめ本アンケートの実施。
- ・「高知県外国人材受入・活躍推進プラン」に係る予算に基づき、資料を収集・提供。
- ・外国語版の高知市家庭ごみの出し方チラシを館内で配布。**新規**
- ・関係機関作成チラシを目的別に整理。**新規**

②情報活用のサポート

- ・パスファインダー「外国人の雇用を考えるときは」、ブックリスト2種を新規作成。**新規**
- ・日本語学習資料の配架の見直しを実施。**新規**
- ・やさしい日本語での見学ツアー・活用講座を日本語教室3クラスで実施(10/8、22、12/11)。

③他機関等との連携

- ・国際交流員のおすすめ本を継続して展示。
- ・企業向け「外国人材採用実践セミナー」(高知県中小企業団体中央会主催)、「外国人向け自転車講習会」で出前図書館を実施。**新規**
- ・外国人コミュニティや他機関で使われているSNSを通して、図書館の情報を発信。**新規**

④各種催しなど

- ・外国語のおはなし会をはじめ、ベトナム映画上映会、文化で味わう世界の味、キングダムから現代中国まで(いずれも県国際交流課と共催)、多文化共生ワールドツアーin高知(JICAと共催)、「国際ふれあい広場(KIAと共催)」、世界の本の読書会等を実施。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

①資料の収集・提供

- 展示テーマに合わせて、関係機関作成のチラシなどを収集・提供することで、情報の充実度が高まった。また、生活情報や防災情報のチラシを一元化して整理したことで、利用者が、手に取りやすい形になった。
- おすすめ本アンケートの実施により、利用者のニーズに沿った資料の提供ができています。
- 外国語雑誌・新聞の利用促進のため、案内を工夫する必要がある。



日本語学習者向け活用講座

②情報活用のサポート

- 外国人を対象にした活用講座や館内ツアーにより、サービスを知ってもらう機会を提供できた。新たに活用講座の要望を受けるなど、サービスPRや取組の機会が拡大しつつある。
- 学習者・指導者向けの日本語学習資料の混在による資料の探しにくさを解消したことで、利用者の利便性が向上した。
- 情報発信の方法や表現を、外国人利用者に伝わりやすくなるように検討する必要がある。



「外国人向け自転車講習会」での出前図書館

③他機関等との連携

- 関係者交流会に呼んでもらうなど、関係機関とのネットワークが強化され、関係づくりが進展している。
- 出前図書館をきっかけに、新たな連携先を開拓し、新規事業につながった。また、連携事業により、外国人利用者の登録や貸出しを促進できた。
- 外国人コミュニティで使用されているSNSを通じた情報発信により、在留外国人に直接、図書館PRをすることができ、利用につながった。
- 対象者に届く効果的な情報発信を行うため、継続した連携が必要。

④各種催しなどの実施

- 関係機関と連携することによって多様な内容の行事が実施でき、幅広い層の参加者に向け、効果的に図書館サービスのPRができています。HELLO WORLD外国語のおはなし会へのお褒めの言葉があり、参加者から高い評価を得ている。
- 国際交流員と連携した映画会・講座や、在留外国人らの母国の暮らし等を紹介するイベントを通して、多文化理解の場を提供できた。「図書館の資料(DVD)がないと映画会はできなかった」、「連携により効果的に集客ができた」などの声があった。

今後の取組

- ①・「高知県外国人材受入・活躍推進プラン」に係る予算を併用し、資料の収集を継続。また、市町村立図書館等による需要に合わせて、多文化サービス支援用図書セットを拡充。
- ・やさしい日本語のフロアマップを作成予定。
- ・利用者の利便性向上につながるよう英語多読資料の整理(レベルごとに排架)。
- ②・在留外国人に向けた、図書館利用促進のためのPRを継続(各種広報媒体の活用など)。
- ・パスファインダーの新規作成。
- ・「インターネット利用の際の注意事項」の英語版作成予定。
- ③・「須崎市事業者向け日本語教室活用推進セミナー」でサービスPRを実施。
- ④・各種催しの開催。
- ・1/18多文化理解講座(JICAと連携)を実施。
- ・2/7「語学ボランティアのための通訳・翻訳セミナー〜医療・福祉編〜」(KIAと共催)を、他サービスと共同で実施。

主な連携先

高知県国際交流協会(KIA)、県国際交流課、県商工政策課、市総務課、高知県外国人生活相談センター(ココフォーレ)、JICA高知デスク、高知県中小企業団体中央会、在高知インドネシア人会等

特記事項など

- ・次期サービス計画策定に向け、在留外国人を対象に図書館利用に関するアンケート調査を実施。**新規**
- ・「高知県多文化共生推進プラン(仮称)」策定を目的とした会議へ参加。**新規**
- ・社会教育主事講習にて取組事例を発表(8/19)。

3-【4】図書館利用に障害のある人へのサービス

概要

○オーテピア高知声と点字の図書館と連携し、図書館利用に障害のある人に配慮したサービスを提供するとともに、サービスの積極的なPRを行います。
○多様な資料やサービス、コミュニケーション手段により、ユニバーサル・デザインの考えに沿った利用しやすい環境を整えます。

サービス指標

宅配貸出サービスの利用件数
対面音訳サービスの利用件数

R 7年度 (R7.12/31現在)	R 8年度目標 (見直し前)
42件	60件
533件	1,200件(780件)

主な取組 (R7.4/1～R7.12/31)

- ①バリアフリー資料の収集・提供
 - ・大活字本やLLブックなど、多様なバリアフリー資料を収集して展示。
 - ・大活字本のブックリストを更新（追加）。
 - ・令和5年度から引き続き、図書展示「布絵本コーナー」を設置。
 - ・**春野高校の生徒に、布絵本製作時の注意事項や利用者が喜ぶ仕掛けなどを説明。新規**
 - ・手話言語の国際デー（9月）、障害者週間（12月）に合わせた展示を実施。
- ②イベント
 - ・聴覚障害者協会と連携し、「手話で楽しむおはなし会」を開催（7/27）。
 - ・高知声と点字の図書館と連携し、「バリアフリー映画会」を開催（11/30）。
- ③対面音訳ボランティアの養成
 - ・高知声と点字の図書館と連携し、ボランティア活動者を対象とした「読みの調べ方講座」（7/27）、「スキルアップ研修」（11/14）を実施。
- ④サービス対象者及び支援者への広報
 - ・香美市立図書館で対面音訳研修を実施（5/15）。
 - ・「ESSENCEシンポジウム in 高知」（10/11）、「精神保健福祉大会」（10/15）、「人権啓発フェスティバルこころんフェスタ」（12/7）などで出前図書館を実施。
 - ・「ルミエールオンラインサロン」でサービス説明を実施（8/26）。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①バリアフリー資料の収集・提供
 - バリアフリー資料コーナー以外に布絵本を常設展示することで、より多くの利用者に資料がアピールでき、手に取られる機会が増えた。
 - 布絵本の作成・寄贈者である春野高校の生徒に、布絵本製作時の注意事項やどのようなものが喜ばれるか等について直接説明することで、バリアフリー資料に関する理解を深めることができた。
 - 大活字本は利用者も多く、ブックリストの希望も多いため、半期ごとに新規作成して、提供。利用をさらに促進できた。
- ②イベント
 - イベントの参加者は増加しており、当事者が楽しむだけでなく、興味がある方が理解を深めたり、バリアフリーサービスについて知る機会となっている。
 - 手話で楽しむおはなし会は、参加者増加に合わせた導線づくりや会場設営など、運営面で改善すべき点がある。
- ③対面音訳ボランティアの養成
 - 読みの調べ方講座では、データベースの操作体験及び参考図書の配架場所の案内を実施したところ、「役立つ図書を具体的に知ることができよかった」と好評を得た。
- ④サービス対象者及び支援者への広報
 - 出前図書館の実施により、図書館への来館経験の有無に関係なく、県民・市民に対して、図書館利用が困難な方にも役立つ資料やサービスを提供していることをPRできた。
 - より多くのサービス対象者やその支援者、関係機関等に情報を届けるため、多様なPR及びその効果の評価方法について引き続き検討・実施が必要。



手話で楽しむおはなし会



読みの調べ方講座



スキルアップ研修



バリアフリー映画会

今後の取組

- ①・バリアフリー資料の収集・展示を継続し、資料の活用を促進。
 - ・ブックリストの作成・更新（追加）・提供により、県民・市民、支援団体・機関等に向けた図書館活用のPRを継続的に実施。
- ②・手話で楽しむおはなし会で、参加者が入りやすい工夫を実施（1/25）。
- ③・読みの調べ方講座、スキルアップ研修について、声と点字の図書館と来年度の実施に向けて協議。
- ④・第3期サービス計画に向けたアンケート調査などをもとに、効果的な広報について検討。

主な連携先

県障害福祉課、県聴覚障害者協会、県療育福祉センター、ルミエールサロン、高知声と点字の図書館

特記事項など

- ・**全国図書館大会にて、「オーテピア高知図書館におけるバリアフリーサービスについて」の事例報告を実施(10/31)。**
- ・動画「手話で楽しむおはなし会」を作成、公開予定。

4-【1】市町村立図書館等への支援（県立図書館機能）

概 要	○協力貸出等の物的支援と市町村職員を対象にした研修事業等の人的支援により、県全体の図書館サービスの充実と職員のスキル向上に取り組みます。 ○東部・中央・西部の各ブロックの担当職員を置き、課題解決支援サービスのノウハウを共有するなど、各市町村の状況等に応じた支援を行います。
-----	---

サービス指標	R 7 年度 (R7. 12/31現在)	R 8 年度目標(見直し前)
	協力貸出点数 30,432点	40,000点(35,000点)

主な取組（R7.4/1～R7.12/31）

①巡回訪問や依頼訪問等による支援

- ・図書館等の運営支援のための巡回訪問を実施。
- ・図書館振興計画の目標達成に向けて、県生涯学習課との定期的な打合せを実施。
- ・自治体職員図書館担当者研修の打合せに併せて、県生涯学習課と共に嶺北地区の町村教委を訪問。

②情報提供

- ・ブログやメールによる情報発信。
- ・「高知県内図書館協力マニュアル」を改訂。当館司書の専門性を生かして研修メニューを充実。

③研修の実施

- ・図書館等職員のスキルアップを目的に、図書館サービス研修(3回)、ブロック別研修(3地区3回)、どこでも・いつでも研修(2回)を実施。
- ・図書館サービス研修の一環として、小規模図書館・未設置町村図書室を対象とした交流会を開催(2回)新規

④課題解決支援サービス実施への協力

- ・物流システムの活用や協力レファレンス等により、図書館等に資料・情報を提供。
- ・各市町村の課題に応じ、情報・資料を提供。
- ・「高知県外国人材受入・活躍推進プラン」に係る予算に基づき、市町村での巡回展示を実施し、資料を提供。新規
- ・空き家相談会の開催を企画している図書館への情報・資料の提供。

⑤移動図書館による支援

- ・利用が見込まれる資料を購入して運行。
- ・巡回の重点化に向けた調整。新規

成果と課題（○：成果 ■：課題）

①巡回訪問や依頼訪問等による支援

- 図書館等からの求めに応じた情報を提供することで、業務をサポートできている。また、巡回訪問で把握した図書館等の実態や課題等を県生涯学習課と共有することで、行政の動向を踏まえた働きかけを行うことができた。
- 図書館現場だけでは解決が難しい課題を抱える市町村には、行政を巻き込んだ働きかけが必要。

②情報提供

- NHK連続テレビ小説「あんぱん」にちなんだ連携展示を実施（香美市・南国市）。
- 市町村図書館で実施している子ども司書講座の参加者を対象に、オーテピアでの図書館見学を実施（3回・4市町）。
- 相互貸借新システムの有効・円滑な活用のため、図書館への事前説明の機会が必要。

③研修の実施

- 小規模図書館等の職員を対象とした交流会を実施したことで、小規模図書館等同士でのサービスに関する情報共有や、職員同士のつながりができ、「小さな図書館なりの工夫を共有できた」、「また開催してほしい」といった反応があった。
- 図書館サービス研修（初任者編）で接遇に関する研修を動画視聴へ移行し、集合研修への参加が難しい職員も受講できるようにした。
- 図書館サービス研修（初任者編）にバリアフリーサービスの科目を盛り込むことで、県の「読書バリアフリー計画」と連動した研修機会を提供できた。

④課題解決支援サービス実施への協力

- 市町村立図書館での空き家相談会の開催について、関連資料の提供に加えて、関係機関を仲介できた（津野町など）。
- 市町村立図書館での多文化サービスの取組が拡大しつつある（土佐市、四万十市、香美市など）。
- 日本語教室・サロンの活用推進について、新たな図書館施設を整備中の須崎市で、図書館関係者と情報共有しながら、関係団体と連携した取組を進めている。
- 多文化セットの巡回展示を開始したところ、10館28セットの申込みがあった。

⑤移動図書館による支援

- 新たな図書館を整備中の自治体等(3市)において、協力貸出を中心とした利用に移行。
- 図書館未設置自治体への巡回の重点化に向けて、さらなる検討・調整を要する。

今後の取組

①・県生涯学習課と情報や取組方針を共有する機会を継続して設ける。

②・ブログ等での情報発信を継続。
・新システムの利用方法を図書館等に説明する機会の時期や方法について検討。

③・「本の修理・修復作業」をテーマとした「どこでも研修」の実施（香美市）。
・対面と動画との使い分けなど、効果的な研修の実施方法や内容について、他県の状況を踏まえて検討。

④・各市町村の課題に合わせて資料を収集・提供。特に、外国人材の確保・活躍に関する分野について、図書館等のニーズも考慮し、資料を収集。
・当館作成のパスファインダーひな形を引き続き提供。

⑤・各市町村の図書館整備状況等を考慮しながら、設置市町村に対して、協力貸出を中心としたオーテピア高知図書館の利活用を促進。
図書館未設置町村への巡回の重点化。

特記事項など

・新図書館支援の予算に基づき、佐川町立図書館へ資料提供。

・R7年度高知県図書館大会の開催（県図書館協会事業）。

4-【2】高知市全域サービスの拠点（市民図書館機能）

概要

- オーテピア高知図書館（本館機能）と6つの分館、15の分室、2台の移動図書館が一体となり、高知市内全域で図書館サービスを展開します。
- 児童生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動をえられるように、高知市内の小・中学校、義務教育学校、特別支援学校との連携・協力を強化します。

サービス指標

分館・分室・移動図書館利用者数
分館・分室・移動図書館貸出点数
市内小中学校等への団体貸出点数

R 7年度 (R7.12/31現在)	R 8年度目標 (見直し前)
211,680人	31万人(28万人)
938,430点	1,363,000点(1,316,000点)
8,077点	11,200点

主な取組（R7.4/1～R7.12/31）

- ①学校図書館との連携
 - ・はりまや橋小学校の職員向けに図書館活用講座を実施（8/5）。また、小4へのブックトークの実演等の授業支援を実施（11/5、12/12）。**新規**
 - ・高須小学校と高須分室との連携により、学校図書館（展示用）・各クラス（授業支援用）に対し、定期的な団体貸出を実施。また、隔月で学校図書館だよりに、高須分室職員による本の紹介を掲載。**新規**
 - ・高知市学校教育課主催の図書館支援員研修に講師として参加（5/16、10/16）。
 - ・学校図書館や各学級に対するセット貸出などの団体貸出を実施。
 - ・高知市教育研究会図書館教育部会研修会にて、図書館活用講座、館内ツアー、電子図書館体験講座を実施（8/21、参加者52名）。**新規**
- ②分館・分室、移動図書館の活性化
 - ・活性化に向けてカルテを作成中（R7カルテ取組対象4分室）。
 - ・各館を巡るシールラリーの対象者拡大、本館職員による定期訪問を実施。
 - ・本館資料の活用展示を実施。
 - ・新鮮で魅力のある資料排架を保つため、計画的な除籍について検討。カルテ対象館を中心に除籍作業をサポート。
 - ・本館と6分館で、地域に**新規**支援センターと連携して認知症展示を実施（9月）。**新規**
- ③接遇力や利用サービスの向上
 - ・毎月の業務協議研修会で基本業務研修を実施。
 - ・調査業務をサポート。

成果と課題（○：成果 ■：課題）

- ①学校図書館との連携
 - 学校訪問により、教員の図書館への理解が深まるとともに、授業支援等の提案もあり、今後の新たな連携につながっている。
 - 高須分室を主体とした学校図書館との連携により、新鮮で多様な資料の提供など、学校での読書活動を推進できた。
 - 高知市立学校教職員向け（高校除く）の団体貸出の周知が不足。また、従来の学校向けの団体貸出との区別が必要。
※教職員向け団体貸出9件（R7.4～12月末）
 - 学校図書館担当教員は多忙なため、学校での子どもたちの読書環境は学校図書館支援員によって左右される。定期的な支援員研修など、質の向上に向けて引き続き協力が必要。
- ②分館・分室、移動図書館の活性化
 - R7年度カルテ取組対象に加わった分室は、他館の取組事例等を参考に、運営の工夫や出前図書館の実施など、自発的に取り組んでおり、意欲の向上が見られた。
 - 本館職員が訪問時に提案や助言を行うことで、利用者が使いやすい環境を整備。また、地域ならではの資料を購入し、各館の魅力を向上。
 - 本館資料の活用展示（コテピア）は、月平均220冊以上の利用があり好調。
 - 除籍候補リストの作成・提供、本館職員の訪問による除籍により、作業は進行中。引き続き、計画的に除籍を進めていく。
 - 連携展示の実施によって連携先との関係性を深めるとともに、幅広い世代の地域住民に対し、認知症の理解を深める情報を提供できた。
 - 除籍基準を踏まえたうえでの詳細な運用については整理が必要。
 - 分館・分室における地域団体への団体貸出の利用促進。
 - 本館資料の活用展示「コテピア」の利用拡大。
- ③接遇力や利用サービスの向上
 - 分館・分室職員の基本業務の習得機会や調査能力の向上に資する環境を構築できた。
 - 均一なサービスを目指すため、分館・分室職員が使いやすいように、マニュアルを改訂して周知することが必要。



はりまや橋小学校でのブックトークの様子



本館と6分館での認知症展示「希望の木プロジェクト」の様子

今後の取組

- ①・はりまや橋小や高須小との交流を中心に、学校現場の現状を把握し、ニーズに沿った図書館サービスの提供を検討。
- ②・除籍基準の見直し、目安となるリストの抽出方法のマニュアル化、除籍のサポート。
 - ・2月のシステム更新時に除籍を強化。
 - ・団体貸出チラシを作成。
 - ・視聴覚資料版「コテピア」を継続実施。
 - ・カルテを活用した活性化のための取組を検討し、実施後の検証を随時行う。取組を一覧化して共有。
 - ・分室での出張図書館をテーマとした防災に関する活用事例まんがを作成。
- ③・毎月の業務協議研修会での基本業務研修を継続して実施。
 - ・本館職員による分館・分室への1日インターンシップについて検討。

特記事項など

- ・高知市地域共生社会推進本部 地域活動支援推進部会（市の横断的な組織）の研修会でサービス説明を実施（7月）。
- ・社会教育主事講習でサービス説明を実施（8/19）。
- ・高知小津高校でのサービス説明を実施（11月）。

4-【3】県立学校図書館等との連携・協力（県立図書館機能）



概 要	○生徒たちが読書を楽しみ、自ら必要な資料・情報を探し活用して学ぶ力を身につけるための支援を学校図書館と連携・協力して行います。 ○カリキュラムや生徒のニーズに対応する資料の収集・提供等により、生徒の学びを支えるとともに、教職員等に対する研修や講座等を実施します。	サービス指標 団体貸出点数	R 7 年度（R7.12/31現在）	R 8 年度目標（見直し前）
			6,453点	10,000点(2,200点)

主な取組（R7.4/1～R7.12/31）

①学校への資料の貸出しやレファレンスへの協力

・デジタル、グリーン、グローバルの各分野の資料を収集・提供。
・高知国際中学校・高校と高知東高校を連携・協力のモデル校と位置付け、ニーズに応じた資料を重点的に提供。**新規**
・県高等学校課主催の情報科教育研修で図書セットを展示。サービス説明を実施。

②学校や関係機関との連携の実施

・オーテピア高知図書館と連携した図書館活用教育推進のモデル化を目指した取組。**新規**
高知国際中学校・高校：連携協議。教員研修や公開授業に参加。
高知東高校：授業デザインプロジェクトに参加。
・主任実習助手の配置校を訪問し、担当校の図書館の状況を聞き取り。
・訪問等の機会に、「高知県電子図書館」の登録・利用と探究成果物の掲載について周知。

③図書館活用講座等の実施 **新規**

・高知商業高校で情報リテラシー講座を実施。
・山田高校グローバル探究科の生徒を対象に、図書館活用やデータベース活用の講座を実施。

④学校司書等の研修への協力

・産業教育研究会商業部会や学校図書館関係教職員向け研修、国語科研究協議会等でサービス説明を実施。
・学校司書及び学校図書館業務等に関わる教職員向けの図書館見学会を開催。**新規**
・市町村立図書館等職員向けの図書館サービス研修やブロック別研修会を学校司書等に案内。

成果と課題（○：成果 ■：課題）

① 学校への資料の貸出しやレファレンスへの協力

○ モデル校との緊密な連携関係により、学校の資料ニーズや図書館活用教育の実態を把握できた。
○ 特定教科の研修において、図書セットの展示やサービスの説明を行うことにより、全校の教科教員への広報ができた。
○ 市町村立学校や私立学校を含め、「高知県電子図書館」の利用登録（新入生の追加登録を含む）を行っていない学校へ案内のチラシ等を送付したことで、登録が進んだ（R7年度県立学校新規登録18校2,692人。累計17,551人）。また、探究学習成果物の掲載が増加した（累計172点）。
■ キャリア教育や地域探究活動に役立つ資料のニーズが顕在化。
■ 貸出しの増加に対応した体制の見直しや、貸出期間・冊数の調整が必要。
■ 電子図書館の利用促進のため、さらなる周知が必要。

② 学校や関係機関との連携の実施

○ 探究活動などの図書（館）を活用した学習活動の実態が分かり、他校への波及を目指すうえでの要点や課題が明らかになった。
○ 前年度に引き続き、主任実習助手を訪問したことで、県東部・西部の県立学校図書館の状況等を把握できた。
■ 実習助手（学校司書）や実際に授業を展開する教員の理解を得ながら、学校図書館活動の活性化をサポートする関わりが求められる。

③ 図書館活用講座等の実施

○ 主題部門別の司書の専門性を生かし、図書館での情報の探し方や情報リテラシーに関する理解を広めることができた。
■ 学校図書館との役割分担のもと、講座等の内容や準備を検討する必要がある。

④ 学校司書等の研修への協力

○ 見学や研修の実施後、参加校からの貸出依頼が増加。
○ 図書館サービス研修やブロック別研修会を学校司書等に案内してきたことが、県立学校教職員の恒常的な参加につながった。

図書館見学会 ▶

今後の取組

①・今年度のモデル校のニーズを踏まえ、新たな学校セットを作成。
・団体貸出については、モデル校への働きかけに重点を置く。
・県立学校等への団体貸出について、期間・冊数の見直しに向けた検討。
・学習に役立つ電子書籍を充実させるため、引き続きニーズの聞き取りを実施。電子書籍の利用拡大に向け、モデル校と連携して検討。

②・公共図書館と学校との連携を通じた図書館活用教育推進の普及のため、公共図書館職員に加えて学校司書を対象とした研修を実施。
・モデル校との連携によって得た成果を県高等学校課と共有。他の県立高校等への普及。

③・図書館活用講座等の実施にあたり、学校の実態に応じて、学校図書館及び担当教職員と図書館との適切な役割分担を協議。
・教職員向け広報紙に図書館活用講座の案内を掲載。

④・新任の学校司書等向けの研修動画を作成。
・校内研修や教職員の研修会等でサービスの説明ができるよう、学校や県高等学校課等と協議。

特記事項など

・高知警察署との共催で就職相談会を実施。
・山田特別支援学校を訪問し、運営について相談。
・R7年度から図書セットの定期便を開始。



4-【4】大学等の教育・研究機関等との連携・協力

概要

○教育・研究機関に対して、当館の有する資料・情報を生かし、ニーズや必要性に応じて活動をサポートします。
○多くの人に利用されている当館の強みを生かし、イベント等の共催や、広報活動の支援などにより、相乗的な効果が発揮できるように積極的に連携を進めます。

主な取組（R7.4/1～R7.12/31）

※個別サービスでの取組は各サービスのシート内に掲載

- ①大学等の教育研究機関との連携
 - ・高知健康科学大学と小学生向けの運動教室を実施（共催）。
 - ・高知リハビリテーション専門職大学と連続講座や連携展示を実施（共催）。
 - ・高知大学が実施する社会教育主事講習へ協力（施設見学、講話、会場提供）。
 - ・サービス計画アンケート調査の一環として、高知大学次世代地域創造センターの助言を踏まえ、「オーテピアによる中心市街地活性化への寄与に関するアンケート」を実施。新規
 - ・高知大学「日台連盟国際研究会」の分科会「異分野・世代間連携による防災教育」で大学連携の取組を報告。新規
- ②出前図書館等での資料の紹介・提供
 - ・連携講座等の会場で、図書館サービスの説明や資料の貸出しを実施。
- ③アウトリーチ・サービスの実施
 - ・高知健康科学大学附属図書館にウェブ予約等の利用方法を説明。
- ④学生ボランティア等との協働
 - ・高知学園短期大学保育サークルによる読み聞かせや本の修理、壁面デコレーション、夏休みと冬休みに親子向けイベント（共催）を実施。
 - ・高知県立大学「オーテピアンズ」による、当館SNSでの情報発信。
「大人の方へ贈る読み聞かせ」第6弾の制作。ビブリオバトル高知県大会(11/9)の運営協力。連携図書展示の実施(12月)。

成果と課題（○：成果 ■：課題）

- ①大学等の教育研究機関との連携
 - 継続的に連携事業を行うことで、各大学の取組の周知や利用者への医療健康情報の提供に寄与した。
 - 図書館活用講座の参加者が、講座受講後に利用カードの登録や電子図書館の利用申請を行うなど、その後の利用拡大につながった。
 - 社会教育主事講習への協力では、社会教育行政の担い手となる受講者に対して、図書館の役割や機能を周知できた。
 - 国際的な研究会において、BCPの策定や机上訓練といった特色ある取組について発表できた。
 - 高知大学次世代地域創造センターの協力を得て行った左記のアンケートについて、サービス計画の策定に限らず、結果の活用方法について検討が必要。
- ②出前図書館等での資料の紹介・提供
 - 講座の内容に応じた資料提供につながった。
- ③アウトリーチ・サービスの実施
 - オーテピア高知図書館のサービスについて周知することで、資料の貸出しにつながった。
 - 図書館以外の大学の部署との連携・協力に当たっては、図書館を巻き込んだ調整が必要。
 - 連携先が限定的になっており、特に、複数の学部や機関等を有する大学については、一つの部署で満足することなく、連携の拡大に向けた働きかけが必要。
- ④学生ボランティア等との協働
 - 学生の専門知識や企画力を生かした活動が、図書館サービスの充実につながった。共催イベントでは、1日で200名を超える参加者があった。また、今年度投稿した読み聞かせ動画10本の中には、視聴数300回に迫るものもあった。
 - 活動を通して、図書館サービスへの理解を深め、保育の現場で役立つスキルを身につける機会が提供できた。
 - 当館SNSに学生の視点で投稿してもらうことで、本の紹介や当館の魅力を親しみやすく発信できた。

今後の取組

- ①・高知大学次世代地域創造センターとの連携による調査・研究について、今後の対応を協議。
・9月の「がん征圧月間」・「世界アルツハイマー月間」、1月の「ライフ・イン・ハーモニー推進月間」に合わせて、県内の大学図書館を含め、巡回展示を実施。
- ②・資料のさらなる貸出しにつながるよう、講座の内容に即したブックリストの作成等について検討。
- ③・大学等の専門知を生かすことで、当館や地域が抱える課題解決が期待できるトピックを洗い出し、内容に応じて、大学の関係部署や研究者を訪問。
- ④・学生の専門性や企画力を生かした活動を引き続きサポート。

主な連携先

高知大学、高知県立大学、高知工科大学、高知リハビリテーション専門職大学、高知健康科学大学、高知大学医学部、高知工業高等専門学校、高知学園短期大学 など

特記事項など

4-【5】 中心市街地活性化への寄与・周辺施設との連携

概要

○オーテピア高知図書館の資料・情報、司書の専門性、利便性の高い立地といった資源を活用し、中心市街地の活性化に寄与します。
○文化施設等の周辺施設と連携・協力し、各施設の強みや機能の充実・強化を図り、互いの施設の利用促進や情報発信等につなげます。

主な取組 (R7.4/1～R7.12/31)

①個々の商店や商店街全般に役立つ図書等の収集・提供

- ・商店街振興等につながる図書や雑誌などを継続的に収集・提供。

②観光情報の収集・発信

- ・よさこい祭りに合わせて、市移住・定住促進課と連携したパネル展示と図書展示を実施。
- ・NHK連続テレビ小説「あんぱん」関連の図書展示を実施。関連ブックリストを作成し、当館HPで紹介。併せて、同ブックリストと当館パンフレットを東京の専門図書館へ送付。
- ・漫画家の黒江S介氏の作品『タイマド』とコラボした展示「高知市を描く」を実施。

③商店街や日曜日等の情報発信

- ・日曜日ポスターを1階エントランスホールで掲示。商店街に関するチラシ等を配布。

④商店街との協働

- ・土曜夜市(7/5)、龍馬生誕祭(11/15)に参加。
- ・「商店街活性化アイデア創出ワークショップ」第1回目(7/24)に参加。**新規**
- ・次期サービス計画策定に向けて、関係機関を訪問して業務課題や連携に関するヒアリングを実施(11・12月)。**新規**

⑤文化施設との連携

- ・お城下文化の日(11/9)に参加。
- ・県立文学館の文学者の紹介HPの二次元コードを当館の見出し板に貼付。文学館でも当館のOPACにつながる二次元コードを配置。**新規**

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

①個々の商店や商店街全般に役立つ図書等の収集・提供

- 継続的に商店街振興等に役立つ選書をしたことで、経営や販売に関する資料が充実した。

②観光情報の収集・発信

- よさこい展示を見た高知市観光協会や高知商工会議所(よさこい祭り振興会)からもパンフレットや観光ガイドなどの提供があり、より充実した情報発信ができた。
- 県外の専門図書館での展示を通して、高知や当館のPRができた。

③商店街や日曜日等の情報発信

- 来館者の目に触れやすい場所へのポスターの掲示やチラシの設置により、日曜日や商店街のPRに継続的に貢献できている。

④商店街との協働

- 土曜夜市や龍馬生誕祭ではブースに多くの人々が立ち寄り、商店街の賑わいに寄与できた。龍馬生誕祭では、過去最高となる211冊のリサイクル本を配布した。
- 「商店街活性化アイデア創出ワークショップ」では、まちづくり等に関する資料や図書館サービスをPRするとともに、多くの商店街関係者との交流ができた。
- 関係機関へのヒアリングでは、団体の課題やニーズの把握ができ、サービスの周知にもつながった。

⑤文化施設との連携

- 「お城下文化の日」ではリサイクル本を3,327冊配布し、好評を得るとともに、資料の有効活用が図れた。また、史跡のまちあるきや同日開催の国際交流イベントと連携してスタンプラリーを実施し、中心市街地の活性化に寄与できた。
- 高知県ゆかりの作家に関する情報を、文学館と当館の利用者に二次元コードで提供することで、両館の利用者の利便性の向上に寄与した。
- 当館と文学館の相互利用につなげるため、連携二次元コードの広報について検討が必要。

龍馬生誕祭でリサイクル本を配布

お城下文化の日の様子

今後の取組

- ①・継続的な資料の収集・提供を行う。
- ②・引き続き、関係機関と連携・協力して、情報の収集・発信を行う。
- ③・日曜市のPRポスターや商店街のパンフレット等を継続して掲示・配布。
- ④・「第2回商店街活性化アイデア創出ワークショップ」に参加(1/27)。
・まちゼミに参加し、絵本の修理に関する講座(2/23)と関連図書展示を実施。

主な連携先

市商業振興・外商支援課、市移住・定住促進課、県経営支援課、協同組合帯屋町筋、高知商工会議所、高知お城下文化施設の会

特記事項など

- ・「オーテピアによる中心市街地活性化への寄与に関するアンケート」を実施。